

## 愛知県いじめ問題調査委員会調査報告書の概要（2016年公表）

### 事案2

平成25年6月、県内の私立中学校2年生（当時）の生徒のロッカーが複数の生徒から蹴られるという嫌がらせ行為があり、その後、同年10月には、当該生徒の自宅に「学校をやめてしまえ」という内容を含む匿名の中傷の手紙が送られた。

手紙の差出人が特定できない状況の中で、当該生徒は休まず通学していたが、平成26年2月頃から徐々に不登校に陥り、3年生に進級した同年4月からは欠席か遅刻という状況であった。

### ○検証結果のポイント

#### （1）学校調査のプロセス・方法について

##### ① 初期対応

学校は、ロッカーが蹴られる事件、匿名の手紙の事件について、把握していたにもかかわらず、相互に関連づけて検討することをしていない。学校は、加害生徒による謝罪によって事件を終わらせるだけではなく、一連のいじめを想定して、より早期に対応することを検討すべきであったが、そうした対応がなされなかった。

##### ② 重大事態の調査開始の時期

被害生徒が中学2年の2月から欠席し始めたことからすれば、中学3年の早い時期において、重大事態の目安である30日は超過していたと思われる。学校は中学3年の12月まで調査を開始しておらず、より早期に調査を開始すべきであったが、なされなかった。

##### ③ 組織による対応

学校は、本事案について、いじめ防止等の対策のための組織の一部の構成員が随時対応を検討したとしているが、正式に組織として立ち上げた記録が認められず、組織的対応が十分になされていなかった。

##### ④ 組織の構成

学校が、本事案の調査に第三者を加えたのは、調査を終了する直前のことであった。調査内容を実効性のあるものとするためには、より早期の適切な時期に第三者の参加がなされるべきであったが、なされなかった。

#### （2）学校調査の分析について

再発防止の観点からは、どうしていじめが起こってしまったのか、といういじめの原因についての分析がなされるべきであったが、学校は、いじめの背景や生徒の人間関係について十分な調査を行わなかった結果、原因についての分析がなされなかった。

#### （3）学校における再発防止等のための取組みについて

##### ① 初期対応を機能させるための取組み

いじめ防止等の対策のための組織が有効に機能するためのマニュアル、特に初期対応のマニュアル作成等を検討する必要がある。

##### ② 被害生徒に寄り添い支える体制

ロッカーが蹴られる事件、匿名の手紙の事件を経て、被害生徒が中学2年の2月頃から徐々に不登校になり始めていた状況からすれば、中学3年時のクラス替えに当たっても、被害生徒と親しく、支えられる生徒を同じクラスにするといった、被害生徒に寄り添い支える体制について、最大限の配慮をすることを検討すべきだったが、なされなかった。

##### ③ 教員に対する研修

いじめの相談や訴えがあった場合に真摯に傾聴したり、ささいな兆候であっても、いじめを積極的に認知するといった共通認識を学校全体で図ることが必要である。

##### ④ 生徒に対するいじめ防止教育

いじめは、深刻な精神的危害になることや自分ひとりで抱え込まないことを繰り返して伝えることによって、生徒のとらえ方が変わり、未然防止や早期発見につながるものと考えられる。

### 再発防止に向けての提言

#### 1 いじめの認識と初期対応

いじめの相談があった場合には、真摯に傾聴し、一連のいじめを想定して組織的に対応することが必要であり、組織が有効に機能するため、特に初期対応のマニュアル作成が重要である。そして、いじめの解決は、謝罪のみで終わるものではない、という観点から、被害児童生徒、加害児童生徒に対し、初期段階から継続的に注意を払っていくという視点からの取組みが求められる。

#### 2 重大事態に対応する組織と調査開始の時期

「いじめの防止等の対策のための組織」を設置したうえで、定期的を開催し、組織で情報を共有することによって、不登校事案についての速やかな調査開始を意識し、事実関係を適切に把握するよう留意すること。

#### 3 いじめ防止等の取組み

日頃からの児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つことが大切である（例えば、休み時間や放課後の雑談の中などで児童生徒の様子に目を配ったり、保健室を利用する児童生徒に関する情報を養護教諭から担任やスクールカウンセラーに提供すること等）。日頃の情報収集を積極的に心掛け、教職員やスクールカウンセラー等が相互に積極的な児童生徒の情報交換を行うことにより、情報を共有することが重要である。